

2024年度第1回町田市食育推進委員会 次第

日 時：2024年8月7日（水）

14時00分～16時00分

会 場：町田市保健所中町庁舎1階 講堂

1 開 会

2 委嘱状交付

3 保健所長挨拶

4 委員紹介

5 委員長選出

6 報 告

- (1) 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」の策定について 【資料1】
- (2) 第1回町田市保健所運営協議会報告 【資料2】
- (3) 第1回町田市食育推進庁内連絡会報告 【資料3】
- (4) 「第2次町田市食育推進計画」に基づく取組について 【資料4-1, 2, 3】

7 議 事

- (1) 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」に基づく食育推進について 【資料5-1, 2】

8 その他（連絡事項等）

9 閉 会

資 料

- 【資料1】 まちだ健康づくり推進プラン24-31
- 【資料2】 第1回町田市保健所運営協議会 次第・委員名簿・配布資料
- 【資料3】 第1回町田市食育推進庁内連絡会 次第・委員名簿
- 【資料4-1】 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート 2023年度まとめ
- 【資料4-2】 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート 各視点の評価
- 【資料4-3】 第2次町田市食育推進計画進捗管理シート 各取組の評価
- 【資料5-1】 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」における食育推進の体系図
- 【資料5-2】 食育推進普及啓発グッズ（まち☆ベジーズサイコロ）
- 【参考資料1】 2023年度食育推進計画策定及び推進委員議事内容要約
町田市食育推進委員会設置要綱、委員名簿、席次表
第2次町田市食育推進計画（2019年度～2023年度）【閲覧用】

2024年度 町田市保健所運営協議会 次第

1 委嘱書交付

- ・委嘱書の配付
- ・所長挨拶

2 開会

- ・委員紹介及び会長選出【資料1】

3 報告

- (1) 保健所運営協議会について【資料2】
- (2) 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」について【資料3】

4 議事

- (1) 2023年度事業実績報告及び2024年度事業計画と進捗状況 【資料4～7】

5 閉会**資料**

【資料1】 2024年度保健所運営協議会委員名簿

【資料2】 保健所運営協議会について

【資料3】 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」について

【資料4～7】 2023年度事業実績報告及び2024年度事業計画と進捗状況

参考資料：保健総務課

参考資料：健康推進課

参考資料：保健予防課

参考資料：座席表

2024年度町田市保健所運営協議会委員名簿

区分	依頼先	備考
学識経験者	北里大学医学部公衆衛生学主任教授	堤 明純
	産婦人科医	吉岡 俊輝
	こころのホスピタル町田 院長	宮 地 英雄
	昭和女子大学食健康科学部管理栄養学科教授	調所 勝弘
医療関係 団体の代表	一般社団法人 町田市医師会 会長	山下 弘一
	公益社団法人 東京都町田市歯科医師会 会長	戸羽 一
	一般社団法人 町田市薬剤師会 会長	佐藤 康行
	東京都獣医師会町田支部 支部長	原田 智
	町田市民病院 院長	金崎 章
市民団体からの 選出	町田市民生委員・児童委員協議会 町田第二地区会長	渡辺 綱市
	町田市町内会・自治会連合会 副会長	川畑 一隆
関係行政 機関の代表	警視庁町田警察署 署長	川崎 和己
	警視庁南大沢警察署 署長	今村 輝明
	東京消防庁町田消防署 署長	黒崎 清貴
		(区分順・敬称略)

2023年度 保健予防課（栄養・食生活・食育の実践）の事業実績について

① 栄養・食生活

ア. デジタルサイネージや SNS 等を活用した普及啓発

- ①FC 町田ゼルビア：6月～10月 電光掲示板への PR 画像掲出、アナウンス
- ②ASV ペスカドーラ町田：6月～12月 電光掲示板への PR 画像掲出・場内アナウンス
- ③神奈川中央交通：6月1日～6月30日 車内デジタル広告掲出
- ④東日本タクシー：通年 デジタル広告掲出
- ⑤丸井・モディ：6月1日～6月30日 デジタル広告の掲出
- ⑥SNS を活用した情報発信：通年 町田市公式「まちだの食のわ」Instagram・X（旧 Twitter）



<FC 町田ゼルビア電光掲示板 PR 画像の例>



<ASV ペスカドーラ町田電光掲示板 PR 画像の例>



<丸井・モディ デジタル広告 動画>



<神奈川中央交通 デジタル広告 動画>

イ. 食生活改善普及運動月間の取り組み

- ①パネル展示及びブリーフレット配布（6種類、各30～140部程度）：市庁舎1階イベントスタジオ、森のレストラン、レストランフレンズ
- ②1/3日分の野菜が摂れるサラダ麺の提供（総販売数 304食）：森のレストラン
- ③野菜摂取量の増加を啓発するPOP等の掲出：市庁舎コンビニエンスストア
- ④電光掲示板及びデジタルサイネージへの啓発画像の掲出：町田 GION スタジアム電光掲示板、町トレ、町田マルイ・モディ、東急リバブル

あなたの減塩タイプはどれ!?

食塩に含まれる「ナトリウム」は、生きていくうえで欠かせない栄養素です。しかし、日本人は食塩をとり過ぎている傾向にあります。高血圧等の生活習慣病を防ぐために今日からできることを始めましょう。

START★

普段の食生活は 自然・調理することが多い

はい A →
いいえ B →

はい C →
いいえ D →

どちらの食事が多いですか?

外食・コンビニが多い A
外で買って帰ることが多い B

味の付けが濃くなりかまたは濃い味が好き C
味の付けが薄くなりかまたは薄い味が好き D

A 外食でも上手に減塩しよう!
注文の工夫など、減塩のツボを押さえてみましょう。

B 「食塩成分表示」を活用しよう!
栄養成分表示を比較して食品の選び方が分かります。

C おうちでできるポイントを紹介!
家庭の調理・食事は減塩の工夫がたくさんできますよ!

D 減塩の調味料! さらなるポイント!
漬物や野菜酢・味噌なども活用して引続き減塩を!

A~Dについての解説は次のページへ

食事バランスを整えよう!

なぜバランスよく食べる必要があるの?
食べ物は私たちの体をつくり、維持するために欠かせないものです。同じ食べ物をばかり食べたり、食事を抜く生活を続けていると、栄養バランスが崩れて体に悪い影響を及ぼすこともあります。毎食毎日をこなすだけでなく、さまざまな食材をまんべんなく、バランスよく食べることが重要です。

何をどれだけ食べれば、まったり栄養するのは大変!
『栄養バランス』と聞くと、難しいイメージがたつかもしれません。栄養バランスを整えるポイントには、まず、**主食・主菜・副菜**を揃えること。食事の時に、この3つが揃うように意識すると、必要な栄養素をとることができます。

ケース! バランスのとれた食事を選んでみましょう!

次の①~③のうち、最も適切なバランスがとれている食事はどれでしょう。

① ② ③

①: 鶏肉、野菜、味噌汁、ごはん
②: 鶏肉、野菜、味噌汁、ごはん、漬物
③: 鶏肉、野菜、味噌汁、ごはん、漬物、納豆

①: 主菜・主菜・副菜に注目して食べると分かりやすいですよ。
答えは次のページへ

防災備蓄食品を確認しよう!

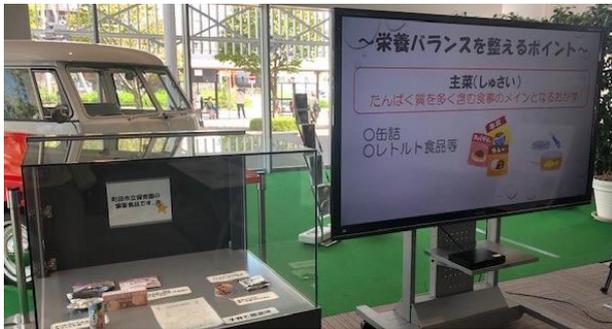
家庭備蓄の例 (1週間分/大人2人の場合)

主食	米 2kg×2袋 ※1袋あたり1500kcal ※1人1食750kcal カップ麺類×6袋	副菜・その他	缶詰(肉・魚) ※1人1食100kcal ※1人1食100kcal 日持ちする野菜類 ※1人1食100kcal 梅干し、のり、乾わかめ等 野菜ジュース、果汁ジュース等
主菜	乾麺(コメ・そば・うどん等) ※1人1食100kcal ※1人1食100kcal パスタ(乾燥×6袋)	飲料	ミネラルウォーター ※1人1食100kcal インスタントみそ汁や味噌スープ ※1人1食100kcal 野菜ジュース、果汁ジュース等 ※1人1食100kcal
必須品	食塩(1kg×1袋) ※1人1食100kcal 食塩(500g×2袋) ※1人1食100kcal カセットコンロ×2本 ※1人1食100kcal カセットボンブ×12本 ※1人1食100kcal		

※1週間分(7日間)の備蓄食品(2019年9月)を想定

災害時にも栄養バランス!
災害時は、脱水症状ばかりになり、野菜不足になりがちです。栄養バランスが崩れたら、体調不良や病気の原因になります。しかし、被災時であっても、適切な栄養バランスのとれた食事があれば、心と体が満たされ、精神的なストレスを軽減するための栄養サポートが期待できます。栄養バランスを整えるための備蓄食品を確認しましょう!

<町田市保健所保健予防課保健栄養係作成 オリジナルリーフレット例>



<市庁舎 イベントスタジオ>



<市庁舎 コンビニエンスストア>



<森のレストラン Cランチ>



<東急リパブル>

② 食育の実践

ア. 6月の「食育月間」における庁内や民間企業等と連携した取り組み

- ① 庁用車への食育月間ステッカー添付
- ② 中央図書館児童コーナーに食育関連書籍を設置（図書館職員との連携）
- ③ 懸垂幕の掲示
- ④ 市民ホールレストラン・健康福祉会館へのぼり旗を設置
- ⑤ SNS・デジタルサイネージによる啓発



<町田マルイ・モディのデジタルサイネージ、SNSでの発信>



<図書館コーナー ポスター>

イ. 町田市食育ボランティアの活動実績

内容	日程	場所	活動人数
食育クイズの実施	6月17日(土)～ 6月19日(月)	東急リバブル	7名
くらしフェア	7月28日(金)～ 7月29日(土)	町田市民フォーラム	5名
うどん作り	1月18日(木)	山崎保育園	3名
野菜クイズ、野菜スタンプ	1月27日(土)	放課後デイサー ビスシエル	3名
調理実習「パッククッキング」	2月4日(日)	子どもセンター まあち	7名
対話型鑑賞	2月6日(火)	生涯学習センター	4名

ウ. 市内の農家等と飲食店と連携した食や農業の理解を深める食体験事業の実施

開催日時：2023年7月26日(水) 10:30～13:20

開催場所：相原ブルーベリー農園、子どもセンターぱお

テーマ：町田の食を味わおう！～ブルーベリーの収穫体験&まちだランチ～

参加者数：9組20名(大人9名、子ども11名)

※3歳～中学生の子どもとその保護者



<収穫体験の様子>



<まちだランチ弁当>



<講話・クイズの様子>

エ. 民間企業や相模原市に加え、大学も参画した野菜レシピブックの作成・配布

【第3弾】

- ・配布期間：6月1日～6月30日
- ・配布数：13,900部（町田市内施設等 5500部）

【第4弾】

- ・配布期間：2024年1月30日～1か月程度
- ・配布数：19,470部（町田市内施設7,020部）



<レシピブック 第3弾・第4弾>

2024年度 第1回町田市食育推進庁内連絡会 次第

日時：2024年7月18日（木）
9時30分～11時30分
会場：保健所中町庁舎 研修棟2階 研修室

- 1 開 会
- 2 委員自己紹介
- 3 報 告
 - (1) 2023年度食育推進計画策定及び推進委員会の報告について
 - (2) 第2次町田市食育推進計画に基づく取組の報告について
 - (2) 食育カレンダーについて
- 4 議 事 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」の推進について
- 5 事務連絡
- 6 閉 会

<配付資料>

- ・【資料1】2023年度食育推進計画策定及び推進委員会の報告について
- ・【資料2-1～3】第2次町田市食育推進計画進捗管理シート
- ・【資料3】食育推進の体系図
- ・「しれっと減塩」レシピブック
- ・まちだ健康づくり推進プラン24-31
- ・まちだ健康づくり推進プラン24-31 概要版
- ・2024年度町田市食育推進庁内連絡会 委員名簿
- ・町田市食育推進庁内連絡会設置要綱

2024年度町田市食育推進庁内連絡会 委員名簿

所属（部）	課	役職	代理（内線）
		委員氏名	
市民部	市民協働推進課	男女平等・消費生活担当課長	田中 真人 (5803)
		磯崎 悠	
地域福祉部	障がい福祉課	課長	山口 庸介 (3216)
		桑原 康二	
いきいき生活部	高齢者支援課	課長	カークウッド 裕美 (3435)
		早出 満明	
保健所	保健総務課	保健総務課担当課長	河野 葉子 (3393)
		田中 麗	
	保健予防課	保健予防課担当課長	藤崎 朋子 (8211)
		中村 弘子	
	生活衛生課	課長	古川 ゆうみ (78-216)
		有田 宏治	
子ども生活部	児童青少年課	課長	柴田 あや子 (775-5258)
		菊地 仁幸	
	子育て推進課	課長	鎌田 恵梨子 (3591)
		香月 勇人	
経済観光部	観光まちづくり課	課長	犬塚 裕美子 (3651)
		石崎 進	
	農業振興課	課長	渥美 椋太 (3637)
		林田 隆幸	
環境資源部	環境政策課	課長	齋藤 あずさ (79-4146)
		池澤 竜臣	
学校教育部	保健給食課	課長	草柳 典子 (5083) 小塚 翔美 (5086)
		林 啓	
	指導課	指導室長兼指導課長	山田 晃大 (5128)
		大山 聡	
生涯学習部	生涯学習センター	センター長	山本 昌和 (5826)
		川瀬 康二	
町田市民病院	栄養科	栄養科長	海老沢 咲 (88-7002)
		加藤 尚子	

【会長】 保健所保健予防課長 福島 千尋

【事務局】 保健所保健予防課（内線 78-221～224）

中坪綾子・中原真由美・斉藤遥香・北田さき子・高澤奈緒

第2次町田市食育推進計画進捗管理シート

★:重点になっている取組
◎:評価指標に関連する取組

活動主体	重点	状態	計画推進の視点										対象							取組	取組の概要及び目的	実施期間・回数	取組の方向性	食育の視点としての目標
			1		2		3		4		5		妊・乳・幼	小・中	高・大	成人	高齢者	障がい者						
			①	②	①	②	①	②	①	②	①	②												
保健予防課																			◎特定給食施設等の巡回指導	「利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設の割合の増加」のため、指導を行う。	通年	事業者、飲食店、給食施設等における食品ロス削減や減塩に関する取組及び情報発信	・特定給食施設等巡回指導数年間60件 ・減塩、食品ロス削減の視点を含めて、指導を行う	
保健予防課																			食育推進ネットワークの連携	関係機関と連携。町田市食育推進庁、町田地区協議会等と連携。				
保健予防課	★																		食環境整備事業	市民が望む食に関わる環境を整備する。				
保健予防課																				食を通じた地域交流の推進により、家族や友人と一緒に食卓を囲んで食事をする大切さなどの普及啓発を図ることを目的として、地域で活動を行う。				
保健予防課																			食体験事業	農業体験により、食や農業生産者とふれる機会を増やすことで、食を楽しむ文化や食に対する感謝の心を育む。	年1回	農業体験や、調理して食べる体験の機会の充実	食や農業生産者とふれる機会をつくる。	
保健予防課	★																		◎まちだすいとんの提供	町田の地域の味としての伝承と町田産野菜の普及啓発、並びに野菜摂取量の増加を目的に「まちだすいとん」をイベントや給食施設等で提供する。	通年	「まちだすいとん」「まち☆ベジ給食」等の提供、レシピ普及	引き続き、給食施設等で提供いただけるよう周知する。	
保健予防課	★																		◎高校や大学等における健康教育	高校生や大学生等の若い世代の栄養バランスに配慮した望ましい食生活の推進のために、高校生や大学生との協働による普及啓発媒体の作成、高校や大学等への出張健康教育等を実施する。	随時	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	若い世代へのアプローチに向けて、前年度の実績を活かしつつ、新たな連携先を模索したい。	

該当する視点に「○」を入力して下さい。複数選択可。年度によって変更することも可。
評価指標に関連する取組には「◎」を

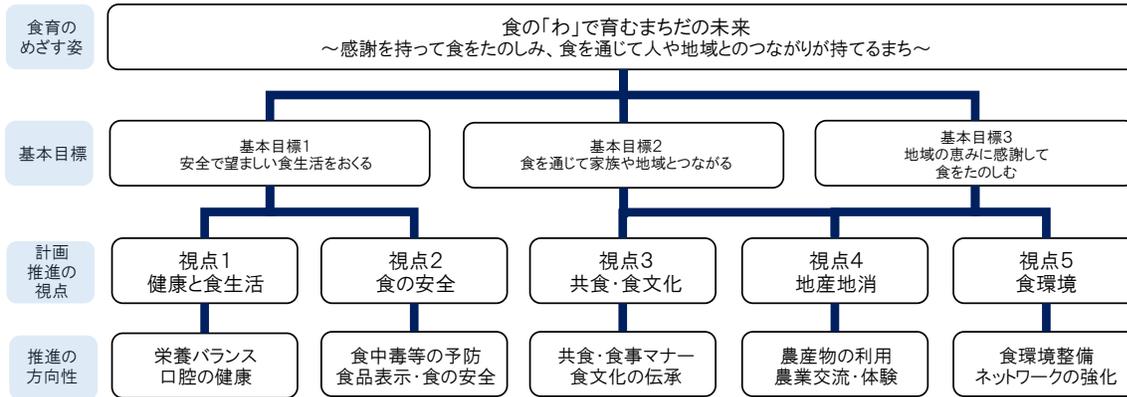
取組例の中の「重点」に該当する取組(事業)の場合は「★」を選択して下さい

該当する対象者に「○」を入力して下さい。複数選択可

2023年度末時点の食育事業を入力してください。
A～X列 2022年度までの内容を入力しています。
2023年度変更がある場合には、赤字修正してください。
Y～Z列 2023年度の「進捗状況」「評価及び今後の展開」を入力してください。
AA列 2019年度から2023年度を振り返り、「5年間の総括・評価」を入力してください。
AB列 各事業について、2024年度に実施を予定しているかどうかを「実施の有無」に入力してください。
※1 事業の追加があれば、行を挿入し、行全体を赤字にしてください。
※2 事業の休止・廃止があれば、削除せずC列「状態」を”休止”、もしくは”廃止”としてください。

取組をどのように実施していくか記入してください。(取組自体の方向性なので、食育に関することなくても可)

●概要



●結果

(1)取組の視点における内訳(重複あり) (件)

視点	推進の方向性	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
視点1	栄養バランス	28	24	23	24	27
	口腔の健康	8	12	11	10	10
視点2	食中毒等の予防	2	3	3	4	4
	食品表示・食の安全	7	7	5	5	5
視点3	共食・食事マナー	35	13	15	19	21
	食文化の伝承	11	8	10	12	10
視点4	農産物の利用	11	10	10	12	12
	農業交流・体験	7	10	9	10	7
視点5	食環境整備	6	8	7	7	7
	ネットワークの強化	3	3	5	5	5

(2)対象別の取組数について(重複あり) (件)

対象	妊婦・乳幼児	小・中学生	高校生・大学生	成人	高齢者	障がい者
取組数	44	40	29	43	26	20
(前年度)	39	37	25	42	26	19

(3)その他

・2023年度で2次計画の区切りが来た。期間中に新型コロナウイルス感染症が起こったため、初期値から、数字上は食育は停滞したように見えてしまうが、デジタル化の波もあいまって、5年間で食育事業の実施方法、内容に大きな変化があった。YouTubeやデジタルサイネージの活用等、オンラインに対応した事業が増加した。事業の開催方法を模索し、変更したりと変化に富んだ時期であった。
 ・視点3の共食・食事マナーの分野では食育を行うことが憚られる時期もあったが、取組数の回復が顕著にみられるはじめている。
 ・効果的な食育事業のため、他課や他団体、外部企業と連携をしながら行う事業が毎年増加していった。
 ・計画は変更になるが、引き続き新プランに沿いながら食育を進めていく。

●取組の例

＜デジタル化に対応した取り組み＞



バス車内広告を用いた取り組み



YouTube等を用いた取り組み



＜現地開催など＞



まちだ市民大学HATS「まちだの水とみどり入門」講座の田植え体験



町田で育つ未来の食べ物見学ツアー
町田市内の大学や農場などで未来を見据えて研究・開発、生産・販売をしている施設等を巡るツアーを実施



- ・鶏ささみのスパイシーフライ
- ・茹で卵
- ・ケールと大根菜のガーリック炒め
- ・ヤーコンとスナップエンドウのサラダ
- ・温野菜（人参、スティックブロッコリー）
- ・自家製漬物
- ・自家製梅干し
- ・甘夏豆乳杏仁
- ・鶏つくねの照り焼き
- ・高野豆腐と干椎茸の煮物
- ・菜の花とほうれん草のボン酢和え
- ・瑞芋の素揚げ
- ・ヤーコンの磯辺揚げ
- ・蒸し南瓜
- ・自家製漬物（紅芯大根）
- ・出汁巻き卵
- ・豆乳杏仁ブルーベリーソース

一里山弁当の開発



まちだ名製品の認定及び販売

第2次町田市食育推進計画進捗管理シート

資料4-2

視点1

食育のめざす姿	食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～								
基本目標	基本目標1 安全で望ましい食生活をおくる	視点					視点1 健康と食生活		
推進の方向性	栄養バランスに配慮した望ましい食生活の推進								
	口腔の健康の推進								
評価指標	評価用データ 把握方法	現状(初期値)	2019	2020	2021	2022	2023	目標値	備考
ふだんの食事で主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる人の割合	町田市の食育推進に関する市民アンケート調査、町田市民の保健医療意識調査	55.6%	-	-	-	47.5%	=	65.0%	初期値より低下した。(2022年度評価)
1日の野菜摂取量(平均値)		265g	-	-	-	233g	=	350g	初期値より低下した。
朝食を欠食する人の割合(20代)		17.9%	-	-	-	18.8%	=	15.0%	初期値より増加した。
ゆっくりよく噛んで食べている人の割合		46.0%	-	-	-	48.0%	=	50.0%	目標値には届かなかったが、改善傾向が見られた。

視点2

食育のめざす姿	食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～								
基本目標	基本目標1 安全で望ましい食生活をおくる	視点					視点2 食の安全		
推進の方向性	食中毒等の予防								
	食品表示や食の安全に関する知識と理解								
評価指標	評価用データ 把握方法	現状(初期値)	2019	2020	2021	2022	2023	目標値	備考
食中毒予防の3原則「つけない、増やさない、やっつける」を知っていて実践している割合	町田市の食育推進に関する市民アンケート調査、町田市民の保健医療意識調査	38.9%	-	-	-	31.5%	=	45.0%	初期値より低下した。
市民に対する食の安全情報に関する広報紙の発行部数(延べ)	事業実績	9,000部	13,000部	23,500部	37,500部	51,500部	65,500部	60,000部	「食べものミミより情報」の発行(年4回)

視点3

食育のめざす姿	食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～								
基本目標	基本目標2 食を通じて家族や地域とつながる 基本目標3 地域の恵みに感謝して食をたのしむ	視点					視点3 共食・食文化		
推進の方向性	共食の推進や食事マナーの習得								
	食文化の伝承								
評価指標	評価用データ 把握方法	現状(初期値)	2019	2020	2021	2022	2023	目標値	備考
朝食又は夕食を誰かと一緒に食べる「共食」の割合(成人)	町田市の食育推進に関する市民アンケート調査、町田市民の保健医療意識調査	88.4%	-	-	-	80.7%	=	増加	初期値より低下した。
朝食又は夕食を誰かと一緒に食べる「共食」の割合(子ども)		98.7%	-	-	-	98.6%	=	増加	初期値より低下した。
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている割合		-	-	-	-	64.4%	=	50.0%	目標値を大きく超えて、達成した。

視点4

食育のめざす姿	食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～									
基本目標	基本目標2 食を通じて家族や地域とつながる 基本目標3 地域の恵みに感謝して食をたのしむ	視点					視点4 地産地消			
推進の方向性	町田産農産物の利用促進									
	農業交流・体験の実施									
評価指標	評価用データ 把握方法	現状(初期値)	2019	2020	2021	2022	2023	目標値	備考	
まちだすいとんの延べ提供数	事業実績	2,192食	15,402食	21,457食	27,131食	28,936食	33533食	20,000食	目標達成	
まち☆ベジ給食の実施回数	事業実績	年1回	年2回	年1回	年2回	年2回	年2回	年2回	42校実施	
小学校給食における地場野菜使用量 (上位10品目)	事業実績	7% (重量ベース)	12%	12.7%	12.5%	14.1%	15.2%	15% (重量ベース)	・目標値に大きく近づいた。 ・白菜キムチやゆずはちみつゼリーなど加工品の製造及び提供を行っている。	

視点5

食育のめざす姿	食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～									
基本目標	基本目標2 食を通じて家族や地域とつながる 基本目標3 地域の恵みに感謝して食をたのしむ	視点					視点5 食環境			
推進の方向性	食に関する環境の整備									
	食育推進ネットワークの強化									
評価指標	評価用データ 把握方法	現状(初期値)	2019	2020	2021	2022	2023	目標値	備考	
スーパー等の事業者と連携した食に関する啓発活動数(年間)	事業実績	10件	6件	5件	3件	7件	6件	15件	「今が食べごろめしあがれキャンペーン」を5店舗で実施。「かわいいレシピ」を発行。神奈中バス車内における普及啓発を実施。	
特定給食施設等巡回指導数(年間)	事業実績	41件	53件	0件	28件	8件	60件	60件	食塩給与量等栄養管理に問題のある施設、新規施設中心に指導。目標値を達成できた。	

保健予防課	★																		食環境整備事業	市民が望ましい食習慣を形成しやすいよう、情報発信等を図る。食に関わる関係団体、民間企業と連携して実施する。	通年	関係機関・団体、行政等が連携・協働した食環境整備に関する取組	関係機関・団体や行政間で連携して行った食環境整備に関する取組数 年間6件	市内デジタルサイネージ等を活用した情報発信、レシピブック発行等を合計で、5件行った。	市民の通学・通勤の場、スーパーにおける買い物場において、野菜摂取や朝食喫食につながる情報を発信した。今後は、情報発信に加えて、市民に身近なスーパーや飲食店で、野菜たっぷりメニュー等の望ましい食生活につながる食の提供に取り組みたい。	1次計画で培った食のネットワークをさらに広げ、様々な民間企業、大学と連携した。連携によって、それぞれが持つ資源、得意分野を活かすことができ、市民へ効果的・効率的に情報発信できた。	有
保健予防課	★																		◎町田市食育ボランティア	食を通じた地域交流の推進により、家族や友人と一緒に食卓を囲んで食事をする事の大切さなどの普及啓発を図ることを目的として、地域で活動を行う。	通年	食育ボランティア等を活用し、共食の大切さや食事に関するあいさつ・作法等の伝承	ボランティアの得意分野、経験を活かした幅広い活動を行う。活動回数 年間20回	実際の食育活動、それに至る準備を含めて、20回活動した。	バッククッキングや手打ちうどん等、ボランティアのスキル、経験を活かして食育を行った。今後はさらにボランティアの自主化を進め、市内における食育活動を進めていきたい。	感染症の影響を受けて、活動できない期間があった。その間も、オンラインを用いたグループワークを実施し、ボランティア同士の関係醸成に努めた。ボランティア活動は積みあがってきており、定期的に依頼のある団体も出てきた。	有
保健予防課																			食体験事業	農業体験により、食や農業生産者とふれる機会を増やすことで、食を楽しむ文化や食に対する感謝の心を育む。	年1回	農業体験や、調理して食べる体験の機会の充実	食や農業生産者とふれる機会をつくる。	1回開催した。ブルーベリーの収穫体験を通じ、都市農業の特徴を参加者へ伝えることができた。	小中学生が夏休みの期間での実施だったため、申し込みが多くあった。今後は対象者が参加しやすい時期の開催を検討したい。	2022年度までは民間企業や関連団体と連携して実施していたが、2023年度は庁内の他部署と連携して実施した。農業体験と、農業生産者とふれる場をつくることができた。	有
保健予防課	★																		◎まちだすいとんの提供	町田の地域の味としての伝承と町田産野菜の普及啓発、並びに野菜摂取量の増加を目的に「まちだすいとん」をイベントや給食施設等で提供する。	通年	「まちだすいとん」「まち☆ベジ給食」等の提供、レシピ普及	引き続き、給食施設等で提供いただけるよう周知する。	1年間で4,597食提供した。	市内給食施設や食のイベントで提供していただくことで、食数が増えている。すいとんの普及によって、町田産農作物の普及や野菜摂取量増加等に取り組むことができた。	有	
保健予防課	★																		◎高校や大学等における健康教育	高校生や大学生等の若い世代の栄養バランスに配慮した望ましい食生活の推進のために、高校生や大学生との協働による普及啓発媒体の作成、高校や大学等への出張健康教育等を実施する。	随時	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	若い世代へのアプローチに向けて、前年度の実績を活かしつつ、新たな連携先を模索したい。	2024年度の食育実施に向けて、市内高校1校と市内大学1校において打合せを行った。	感染症等の状況に鑑み停滞していたが、2024年度には健康教育を実施する見通しが立った。なお、プレコンセッションケアの観点も取り入れる。	感染症等の状況に鑑み停滞していたが、2024年度には健康教育を実施する見通しを立てることができた。	有
保健予防課																				食育に関する情報や体験の場を提供することで、市民の関心を高め、実践につなげる。食育に関する講習会の開催やイベント実施を行う。	年6回程度	関係機関・団体、行政等が連携・協働した食育の取組	デジタルの活用や感染対策を講じて、幅広くより多くの市民を対象とした食育イベントを実施する。	関係機関・団体、行政等が連携・協働した食育の取組数:22件実施	感染症等の制限がないため、引き続き、関係機関・団体、行政等が連携・協働した食育の取組を行っていく。	感染症等の状況を考慮した内容を実施していたが、2023年度には集合型、参加者参加型での事業を実施することができた。	有
保健予防課		休止																	◎食育講演会等の食育イベント	咀嚼判定ガムの色の変化と、固い食べ物を噛めるか自己評価シートの結果から総合的に判断して、来所者自身にどの程度噛む力があるかを知ってもらう。日程調整をし、可能であれば町田市歯科医師会の歯科医師に依頼し、歯科相談ブースも設ける予定。	年2回程度	歯と口腔の健康に関する普及啓発や健診、教室等の実施	咀嚼力測定をきっかけに、オーラルフレイル予防について普及啓発を行う。	実施なし	実施なし	2019年度は、「食育月間イベント(食育フェス)」や「健康づくりフェア」、「まちだ男女平等フェスティバル」等に出席し、咀嚼力測定をきっかけに歯と口の健康について普及啓発できた。新型コロナウイルス感染症流行後は、イベントへの参加ができていないため、普及啓発の場を確保する必要がある。	無
保健予防課																			◎食育月間・食育の日の取組	6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」に合わせて、普及啓発を行う。	6月、及び毎月19日	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	健全な食生活を実現できる人が増えるように、食について学ぶ機会を増やす。親子の食育イベントとして多くの部署と連携し、人が多い場所で行うことにより啓発効果の増大を見込んでいる。「朝食にも野菜を」テーマに、子どもセンターにおける啓発を強化する。	毎月19日の食育の日に合わせて市民ホールレストラン・健康福祉会館においてのぼり旗を掲出した。6月の食育月間には町田駅前における親子向け食育イベントや商業施設や交通機関のデジタルサイネージを使用した普及啓発を行った。	今後も食について学ぶ機会を作る。6月のイベントについては、参加者が見込みよりも少なかったため、次年度以降実施する場合は実施方法を検討する必要がある。デジタルサイネージやSNS等のツールを活用して、情報発信を強化していく。	市内公共施設や商業施設、交通機関において普及啓発を行った。コロナ禍後は、感染症等の状況に鑑み対応する場合は実施方法を検討する必要がある。デジタルサイネージやSNS等のツールを活用して、情報発信を強化していく。	有
保健予防課																			◎食育カレンダーの作成・普及	“食に関わる日・週間”を盛り込んだ年間のカレンダーを作成し、各団体が取り組む“食に関わる日・週間”を共有することにより、一体的な食育推進を目指す。	通年	関係機関・団体、行政等が連携・協働した食育の取組	市民や関係団体における活用状況を把握する。	町田市ホームページで毎月公開した。電子媒体での活用を想定し、紙配布は行わなかった。	各月に行われる食に関するイベントや食に関する日・週間について一目でわかるようにまとめたが、掲載ホームページの閲覧数が各月50回程度と少なかった。2024年度以降は、SNSにおけるリアルタイムな発信と毎年1年間の食育をまとめた報告書を作成することにより情報発信を行っていく。	食育リーフレットの代替として2022年度から食に関する日・週間や市内の食に関するイベントを掲載したカレンダーを作成・発信した。今後は、情報発信の即時性と活用しやすさを考え、SNS及び食育報告書の作成・発信により市の食育をお知らせしていく。	無し
保健予防課																			◎一般健康教育事業	「測定会」において、来所者に咀嚼判定ガムを噛んでもらい、ガムの色の変化でどの程度噛む力があるかを知ってもらう。また、来所者に摂食嚥下機能を維持するためのトレーニング方法を伝える予定。	年2回	歯と口腔の健康に関する普及啓発や健診、教室等の実施	咀嚼力測定をきっかけに、オーラルフレイル予防について普及啓発を行う。	「からだ測定会」は、7月と8月、1月の3回開催され、計46名の方に対し、咀嚼力測定及びオーラルフレイル予防の普及啓発を実施できた。	引き続き、オーラルフレイル予防の普及啓発を実施していく。また、咀嚼力測定だけでなく、嚥下機能(飲み込む力)へもアプローチできるように、測定項目の追加やトレーニング方法の効果的な普及啓発方法を検討する。	感染症対策をしながら、5年間を通じて咀嚼力測定を継続できた。今後は、オーラルフレイル予防の普及啓発を継続しつつ、参加者の年齢層にさらに沿った普及啓発内容を検討していく。	有
保健予防課																				測定や保健師・栄養士の生活習慣病予防に関する講話を通して、生活習慣の改善及び健康増進を図るためのきっかけづくりを行う。	年5回	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	ポピュレーションアプローチの視点から、市民が気軽に参加できる事業を計画する。市民に広く、主食・主菜・副菜を揃えて食べる必要性を伝えていく。測定会を年3回に増やし、出張セミナーは依頼に応じて実施する。	年5回実施した(からだ測定会3回、出張セミナー2回)。からだ測定会について、開催場所を各地域の市民センターとして実施した。2023年度まではコロナ禍において完全予約制としていたが、当日でも気軽に参加できるように予約なしの枠を設けて実施した。	からだ測定会について、予約者・当日参加者ともに少なかったため、今後はアクセシブルな健康福祉会館にて実施する。また、依頼を受けての出張セミナーについては引き続き実施する。	感染症の影響を受けて中止した回もあったが、実施方法や定員を検討・変更しながら行っている。若い世代・働き世代が集まる場に向くことにより、参加者数を増やすことが出来た。	有

農業振興課																				市民農園事業	市民が農作業を通じて土に親しみ生産の喜びを味わうことにより、健康でゆとりある生活に資するとともに、良好な都市環境の形成と農地の保全を図ることを目的として、市民農園の管理・運営を行う。	通年	農業体験や、調理して食べる体験の機会の充実	食が自然の恩恵などに支えられていることを理解できるよう、引き続き市民農園を適正に管理し、農作業体験の場を提供する。	市民農園2園を適正に管理・運営し、市民が多様な農にふれあう機会を創出した。	2024年度からの新たな利用者を募集し決定した。市民農園を引き続き適正に管理・運営する。	食が自然の恩恵などに支えられていることを理解できるよう、引き続き市民農園を適正に管理し、農作業体験の場を提供する。	有
農業委員会事務局																				農業普及事業	自然への親しみ、農業の大切さというものを体感し、農業の理解を深めてもらうため、市民が田植えや稲刈り等を体験できる米作り農業体験を行う。	年4回	農業体験や、調理して食べる体験の機会の充実	食が自然の恩恵などに支えられていることを理解できるよう、農作業体験の場を提供する。	米作り農業体験事業を実施し、参加者に農とふれあう機会を提供した。	15組38名が参加し、田植え、稲刈りなどの農作業を体験した。来年度も継続実施予定。	農とふれあう機会の需要は年々増えており、例年申し込み当日には募集を締め切っている状況である。今後も農作業体験の場を提供していく。	有
環境政策課	★																			◎宴会食べきりキャンペーン	年末年始に飲食店等にポスターを掲示し、宴会時の食べきりを啓発することで、食品ロスの削減を図る。	年末年始	事業者、飲食店、給食施設等における食品ロス削減や減塩に関する取組及び情報発信	事業者、飲食店、関係団体(町田商工会議所、町田商店会連合会、町田食品衛生協会)と協力し、年末年始の食品ロス削減を啓発していきたい。	年末年始(12月から1月)に、市内の商店会店舗、リサイクル推進店、食べきり協力店、公共施設、市民バス車内等において食べきり啓発ポスターを掲示した。また、神奈川中央交通バス車内のデジタルサイネージで動画を放映した。	食べきりに重点を置く動画を制作し、神奈川中央交通バス車内のデジタルサイネージを活用した啓発を行った。また市民バスやコミュニティバス車内にもポスター掲示し、より多くの人に食品ロス削減を啓発できた。来年度も継続して実施していきたい。	年末年始(12月から1月)に市内の商店会店舗、リサイクル推進店、食べきり協力店、公共施設、市民バス車内等に食べきり啓発ポスターの掲示と神奈川中央交通バス車内で動画を放映し、多くの市民へ食品ロス削減を啓発できた。	実施予定
環境政策課	★																			◎食べきり協力店	小盛の設定や持ち帰りへの対応など、食品ロスに係る生ごみの発生抑制等に取り組む小売店舗等を、申請により「食べきり協力店」として認定する。認定後は、協力店の取組を町田市ホームページなどでPRする。	常時募集	事業者、飲食店、給食施設等における食品ロス削減や減塩に関する取組及び情報発信	認定店を拡大し、食品ロス削減している店舗の取組を広く市民へ紹介していくことで、食品ロス削減を推進していきたい。	新規に6店舗認定した。SNSにおいて新規認定店舗の取組を紹介した。	市内の飲食店に直接出向き、食べきり協力店登録の呼びかけを行った結果、新規店舗を獲得できた。今後も広報誌やSNS等で食べきり協力店を広く紹介し、認定店を拡大していきたい。	食べきり協力店として12店舗認定し、町田市ホームページ、SNS、ごみ減量情報紙ごみナクナール等で食べきり協力店の取組を広くPRすることができた。	実施予定
環境政策課	★																			◎今が食べごろ「めしあがれ」キャンペーン	スーパー(リサイクル推進店)の店頭で食品ロス削減の啓発チラシを配布し、賞味・消費期限の迫っている値引き商品を積極的に購入してもらおう誘導する。値引き商品を購入された方には景品を進呈する。	5回	事業者、飲食店、給食施設等における食品ロス削減や減塩に関する取組及び情報発信	市内事業者と連携して、食品ロス削減に関する情報を発信していきたい。	10月の食品ロス削減月間に、市内スーパー5店舗の店頭において、食品ロス削減啓発チラシ及び景品を配布した。	駅前のデパートや大型スーパー等でキャンペーンを実施し、多くの市民に食品ロス削減に関する情報を発信できた。今後も事業者と連携して啓発を行いたい。	市内のスーパーやデパートと協力して、店頭における賞味期限・消費期限の近い商品からの購入を促す「今が食べごろめしあがれキャンペーン」の実施や食品ロス削減啓発チラシ等の配布を行い、多くの来店者に対して食品ロス削減の啓発ができた。	実施予定
環境政策課																				◎使い切り料理教室	料理における食材の使い切り、食べきりを啓発して、生ごみの発生抑制・食品ロスの削減を図る。講師は、町田市食育ボランティアに依頼予定	2回	事業者、飲食店、給食施設等における食品ロス削減や減塩に関する取組及び情報発信	「食」と「料理」に関連した食品ロス削減をテーマに講座を実施し、食品ロス削減を推進していきたい。また、対面形式だけではなくSNS等を利用した啓発についても検討したい。	食品ロス削減月間の10月に使い切り料理教室を1回実施した。	親子を対象に、調味料や食材の使い切りを学べる「使い切り料理教室」を開催した。親子参加としたことで子育て世帯の方に参加いただけ、調理から排出される食品ロスの削減や生ごみの削減を啓発できた。今後も「食」や「料理」に関連して排出されるごみの削減と食品ロス削減をテーマに、料理教室または講座を実施していきたい。	「食」と「料理」に関連した食品ロス削減をテーマに「使い切り料理教室」や「食品ロス削減講座」を年1回開催できた。調理体験を通じて、「冷蔵庫整理収納」、「過剰除去」、「リメイク料理」等さまざまなテーマで、食品ロスの現状や削減の方法を啓発できた。	実施予定
保健給食課																				◎よく噛むことの有効性についての情報発信	学校給食を通じて、よく噛むことが健康の維持増進に役立つことについて情報発信する。	通年	よく噛むことの大切さに関する情報発信	小・中学校：噛み応えがある食物や献立を給食に取り入れ、よく噛むことの大切さを献立表や給食だより等で情報発信する。	小学校：各学校の実態に合わせ、よく噛んで食べることを意識した献立を実施することができた。(特に、6月と11月は多くの学校で実施できた) 中学校：「歯と口の健康週間」にちなみ、給食だより6月号に、よく噛むことの大切さについてのコラム掲載した。また、噛み応えがある食物を献立に取り入れ、よく噛むことの大切さを献立表で継続的に情報発信した。	小・中学校ともに実施することができた。今後も継続して行っていく。	小・中学校ともに、噛み応えがある食物や献立を給食に取り入れ、よく噛むことの大切さを献立表や給食だより等で伝えている。しかし、よく噛むことの具体的な指導まではできていない。	よく噛むことの大切さに関する情報発信を今後も継続していく。
保健給食課																				食育イベント等における給食のPR	学校給食について広く市民に知ってもらい、給食および自身の食生活への関心を高める。	2回	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	土日開催のイベント実施の際は出展し、より多くの市民が町田市の給食を知る機会を設ける。	まちだくらしフェアに出展した。(1回/年)	コロナ後、市民向けのイベントが少なくなっており、参加は1回だけとなった。引き続き、機会があればイベントへの出展を継続する。	コロナ後、対面でのイベントが少なくなっており、イベント以外の情報発信の方法についても検討する必要がある。	今後も機会があればイベントへの出展を継続する。
保健給食課																				児童・生徒の保護者に向けた情報発信	小中学校給食において、給食だよりの発行や試食会の開催を行い、児童および生徒の健やかな成長に必要な栄養情報を発信する。	通年	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	小学校：給食だよりや給食試食会を通じて、積極的な情報発信を行う。 中学校：給食だよりで食育情報を発信する。試食会は感染症の影響で実施は未定だが、実施の際は成長期に必要な栄養摂取について情報発信を行う。また、トップアスリートとのコラボ等様々なテーマに基づいた給食を実施し、生徒の食への関心を高める取り組みを継続していく。	小学校：給食だよりの発行や給食試食会を通じて、学童期における必要な栄養量等について、周知できた。アスリートとコラボした献立やF0町田ゼルビアとのコラボ献立を提供し、成長期に必要な栄養素について、児童の理解を深めた。 中学校：給食だよりや給食予約サイトのひとつコメントにて、食材の栄養素や摂り方について情報を発信することができた。また「ゼルビアコラボ給食」「にっぽんプレミアム給食」など、イベント性を持たせた給食を実施するとともに食育情報を発信することができた。保護者向けの試食会については、昨年度はコロナ禍で1校だけだったが、今年度は4校の開催があり、保護者に対して、成長期に必要な栄養摂取についての講話を行った。	小中学校ともにライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食の提供や食に関する情報発信を行うことができた。今後も継続する。	給食だよりや給食試食会等を通じて、継続してライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食の提供や食に関する情報発信を行うことができた。	給食だよりや給食試食会を通じて、積極的な情報発信を行う。また、トップアスリートとのコラボ等様々なテーマに基づいた給食を実施し、成長期に必要な栄養摂取について情報発信を行うとともに、児童生徒の食への関心を高める取り組みを継続していく。

保健給食課																				学校給食(食物アレルギーへの対応)	各小学校および武蔵岡中学校で、給食の食物アレルギー対応を行う。	通年	食品表示や食品の安全性、食物アレルギーに関する情報発信及び環境整備	市内全小学校及び武蔵岡中学校に対し、食物アレルギー対応委員会の設置および食物アレルギー校内研修を行うよう働きかける。また、「町田市小学校給食における食物アレルギーの手引き」の改訂を2023年8月までに行う。	・「町田市小学校給食における食物アレルギー対応の手引き」を改訂し、各小学校に周知した。2024年度から開始される中学校全員給食で統一した対応ができるように、「中学校給食における食物アレルギー対応の手引き」を作成した。 ・小学校栄養士及び給食調理員対象に食物アレルギー対応に関する研修会を開催した。	・小学校または中学校で統一した食物アレルギー対応ができるように手引きの改定及び作成を行うことができた。今後は取組状況から対応内容の見直しなどを行う。 ・引き続き、食物アレルギー対応委員会の設置および食物アレルギー校内研修を行うよう働きかけや食物アレルギーに関する研修会を実施していく。	食物アレルギーの手引きを改定し、学校での統一的な取組ができるようになった。各学校で食物アレルギー研修を行うなど、各学校での取組も進んでいる。	・各学校への食物アレルギー対応委員会の設置および食物アレルギー校内研修を行うよう働きかけを行う。 ・食物アレルギーに関する研修会を実施する。
保健給食課																				◎各小中学校校における食育(共食の推進や食事マナーの習得)	各校における食育で、共食の推進や食事マナーの習得を行う。	通年	食育ボランティア等を活用し、共食の大切さや食事に関するあいさつ・作法等の伝承	小学校:給食だよりや給食メモを通して、食事のマナーや共食の大切さについて、情報発信を行う。 中学校:給食だよりで、食事に関するあいさつや作法について掲載した。	小学校:給食だよりや給食時間中の指導等で情報発信することができた。 中学校:給食だよりで、食事に関するあいさつや作法について掲載した。	小中学校ともに実施することができた。今後も継続する。	給食だよりや給食時間中の指導等で情報発信することができた。食育ボランティアの活用は進まなかった。	給食だよりや給食時間中の指導等で給食メモを通して、食事のマナーや共食の大切さについて、情報発信を行う。
保健給食課																				◎各小中学校校における食育(食文化の伝承)	各校における食育で、食文化の伝承を行う。	通年	給食での行事食の提供や、町田の地域の味を伝承する教室等の実施	小学校:給食の献立に日本に古くから伝わる行事食をはじめ、郷土料理、世界各国の料理等を取り入れ、食文化の理解につなげる。 中学校:給食の献立に日本及び世界の郷土料理を取り入れるとともに、日本の優れた食材を紹介する献立の実施も行い、給食だよりのコラムや給食予約サイトのコメント欄にて情報発信を行う。	小学校:給食の献立に行事食や日本各地の郷土料理や世界各国の料理等を取り入れた。 中学校給食:献立に日本および世界の郷土料理を取り入れて給食だよりのコラムや給食予約サイトのひとことコメント欄で知らせをした。1月には「全国学校給食週間」にちなみ、1週間を通して、日本の郷土料理を給食で提供した。また、産地直送食材を使用した給食を実施し、日本各地の産地および食文化の理解を深めることができる情報の発信を行った	小中学校ともに実施することができた。今後も継続する。	行事食や日本の郷土料理、世界各国の料理を提供し、食文化への理解を深めることができた。 あわせて、「町田すいとん」を提供し、町田の地域の味を伝えることができた。また、中学校給食では「町田市特性構餃子」を提供し、生徒からのクエストも多く、町田の給食の味として定着してきている。	給食の献立に日本に古くから伝わる行事食や郷土料理、世界各国の料理等を取り入れ、食文化の理解につなげる。給食だよりや一口メモなどで情報発信を行う。
保健給食課	★																			◎小学校給食における地場農産物の使用	小中学校の給食で町田産農産物を使用し、児童生徒が町田産農産物を食べる機会を増やすとともに、地場農産物への関心を高める。	通年	「まちだすいとん」「まち☆ベジ給食」等の提供、レシピ普及	・まち☆ベジ給食を計画、実施する(年間2回実施予定)。 ・まちだすいとんを年1回以上実施するよう各小学校に依頼する。 ・地場農産物の積極的使用を各小学校に促す。 ・新たな地場農産物を活用した加工品を検討する。	・まち☆ベジ給食を年2回実施した。 ・地場農産物の使用について、各校の栄養士に対して、利用促進を促した。 ・教育委員会から「まちだすいとん」の給食での提供は依頼しなかったが、給食週間などで「地域の味」として取り入れる学校があった。 ・地場農産物を使用した加工品を製造し、小学校の給食で提供した。(白菜キムチ・ゆずはちみつゼリー・千切り大根漬・乾燥なす) ・中学校給食で町田産の米を使用した。	・各小学校での地場農産物の使用量が増加している。 ・年2回まち☆ベジ給食を実施することができた。 ・教育委員会からの依頼がなくても、まちだすいとんを取り入れた学校もあった。まちだすいとんを引き続き、地場野菜を使用する機会を増やしていき、町田産農産物を食べる機会を増やしていく。	・小学校給食で年2回のまち☆ベジ給食の実施やまちだすいとんの提供も定着し、地場野菜を使用する機会が増加した。 ・地場農産物を使用した加工品などの開発により、地場農産物を提供する機会が増えた。	・まち☆ベジ給食を計画、実施する(年間2回実施予定)。 ・地場農産物の積極的使用を各小学校に促す。 ・新たな地場農産物を活用した加工品の開発を検討し、その加工品を取り入れた献立開発を検討する。 ・中学校全員給食で地場野菜を取り入れていく。
指導課																				小・中一貫「町田っ子・カリキュラム」の改訂	これまで各小・中学校で活用してきたカリキュラムを改訂し、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力を身に付けさせていく。	未定	ライフステージに応じた望ましい食習慣形成のための、給食や講習会、食に関する情報発信	児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、各学校の食育指導を充実させる。	2022年度健康教育推進委員会で作成した食育に関する授業実務例を各学校に周知した。小学校第6学年及び中学校第6学年を対象に、朝食レシピコンテストを行い、市内小中学校から3983作品の応募があった。	各学校で作成した健康教育(食育)全体計画に則り、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、各学校において食育指導を充実させることができた。また、朝食レシピコンテストでは、2月に作品展示会を行った。小中学校給食にレシピメニューを採用したりするなど市民や児童生徒に向けて情報を発信することができた。今後も成果と課題を把握しながら継続していく。	小・中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」を2023年3月に改定し、食育指導のポイントの整理や授業実践例の掲載等により、実践的な資料を作成することができた。また、2020年度から中学校朝食レシピコンテストを開催し、2021年度からは小学校第6学年まで対象を広げ、食に関する事業を実施することができた。	実施
指導課																				食育担当者連絡会の開催	各学校の食育担当者を集めた連絡会を開催し、改訂した「食育カリキュラム」の内容についての周知とカリキュラムの推進を行う。	1回	関係機関・団体、行政等が連携・協働した食育の取組	食育担当者に小・中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」改訂版カリキュラムの内容や指導のポイント等についての研修を行い、各学校の食育指導を充実させる。	7月3日(月)に開催した健康教育(食育)担当者連絡会の中で、食育指導について、情報共有した。	健康教育(食育)担当者連絡会の中で、町田市における食育の取組を周知したり、各学校で取り組んでいる食育について情報共有したりすることで、食育に関する理解を深めることができた。来年度においても開催予定である。	毎年1回行う健康教育(食育)担当者連絡会の中で、町田市における食育の取組を周知したり、各学校で取り組んでいる食育について情報共有したりすることで、食育に関する理解を深めることができた。	実施
指導課																				「町田っ子・アクティブカレンダー」の配布	行事食など食に関する情報が掲載されたカレンダーを市内全小学校1・4年児童、中学校1年生徒に配布し、児童生徒や保護者の食に関する興味・関心を高め、健全な食生活の実践を啓発する。	4月末に配布	給食での行事食の提供や、町田の地域の味を伝承する教室等の実施	カレンダーの内容について学校や家庭で話題にすることで、望ましい食生活の実践、和食や行事食等の食文化の伝承を推進する。	2023年度5月に「町田っ子アクティブカレンダー」を一部改定し、配布した。	小学校1・3・5年児童、中学校1年生徒に配布し、健全な食生活の実践を啓発することができた。	毎年度、「町田っ子アクティブカレンダー」を一部改定しながら、配布した。2022年度からは配布対象を広げ、小学校1・3・5年児童、中学校1年生徒に配布し、健全な食生活の実践を啓発することができた。	未実施
生涯学習センター	★																			家庭教育支援学級	家庭教育を進めることを目的に母親などを対象として講習会を行っている。事業の一環として食育ボランティアによる講習会などを企画する。	1回	食育ボランティア等を活用し、共食の大切さや食事に関するあいさつ・作法等の伝承	調理や会食を伴わない内容を含めて検討し、引き続き食を学ぶ機会を設けていきたい。	食育ボランティアによる、食にまつわる絵本を活用した講義。子どもの好き嫌いについてどう向き合うか。	絵本の活用と、食育を結びつけることができ、子供への向き合い方を学ぶよい機会となった。	2020年度・2021年度はコロナ禍のため実施できなかったが、家庭教育の基礎である食育の場を提供することができた。	調理を通して親子コミュニケーションを図る講座として実施予定。
生涯学習センター		廃止																		○障がい者青年学級合宿	学級活動として、例年1泊の合宿を実施し、障がい者が支援ボランティアと共に調理に挑戦し、皆で食事を楽しむ。	1回	食育ボランティア等を活用し、共食の大切さや食事に関するあいさつ・作法等の伝承	青年学級生の安全性を考慮した結果、合宿を実施しないこととした。	未実施	青年学級生の安全性を考慮した結果、合宿を実施しないこととした。	青年学級生の安全性を考慮した結果、合宿を実施しないこととした。	青年学級生の安全性を考慮した結果、合宿を実施しないこととした。

町田地域活動栄養士会																		料理教室等の開催	市民等を対象とした料理教室を開催する	4回	料理教室等開催時に町田市の食材を使用する	・4回のうち2回以上、町田産農産物を使用する。	町田産農産物を2回使用できた。	・市内の農家の方と連携をとることができて良かった。 ・次年度のテーマは未定だが、引き続き町田産農産物を使用していく。	町田地域活動栄養士会の目的として、地域住民の食生活の向上及び健康増進に寄与することにあります。しかし2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、各種料理教室やイベントの中止もあり栄養士活動も必要最低限にせざるを得ない状況にありました。 2021年度はコロナ渦の影響により「くらしフェア」のみの啓発活動となりましたが、2023年度は「くらしフェア」、「ニ〇祭まちだ」のイベント事業参加の他、町田市庁舎イベントホールにて「災害フェア」、「女性のための健康週間」としてポスターと料理レシピの展示や男性料理教室等も開始され、少しずつ啓発活動が増えてきました。また外部受注事業もありました。 このような時期に地域住民の健康増進の啓発活動が続けられたことが良かったと思いました。	引き続き実施を予定。
町田地域活動栄養士会																		イベントでの展示	①市民を対象としての災害時の3日分の献立の展示 ②地産・地消、冬でもバランスよく ③女性の健康づくり	各1回	①備蓄食品の活用(くらしフェア) ②冬野菜と主菜の活用(二十祭まちだ) ③「若い女性の健康週間」にポスターとレシピの提供	①来ブース数400人 ②二十祭まちだ来場者対象 ③市役所来場者対象	①来ブース数 327名 牛乳・キウイフルーツ配布数 320個 ②アンケート調査人数 38名 ③約50名(展示レシピの残より)	①日本栄養士の栄養ワンドアの活用が来ブース数の増加になった ②朝の欠食34.2%、朝の野菜摂取37.0%、1日合計野菜摂取2.8つ、一人食べ朝56.0%と町田市食育推進計画の調査に比べ朝食欠食、一人食べが多かった。 ③若い女性の健康意識の向上に繋がった。	町田地域活動栄養士会の目的として、地域住民の食生活の向上及び健康増進に寄与することにあるが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、各種料理教室やイベントの中止もあり栄養士活動も必要最低限にせざるを得ない状況にあった。 2021年度はコロナ渦の影響により「くらしフェア」のみの活動となったが、2023年度は「くらしフェア」、「ニ〇祭まちだ」のイベント事業参加の他、町田市庁舎イベントスタジオにて「災害フェア」、「女性のための健康週間」におけるポスターと料理レシピの展示や、男性料理教室等も開始され、少しずつ活動が増えてきた。また外部受注事業もあった。 このような時期に地域住民の健康増進の啓発活動が続けられたことが良かった。	引き続き町田市民の食生活の向上及び健康増進のために「くらしフェア」「子どものスポーツ栄養(仮)講演会」「ニ〇歳まちだ」「男性料理教室」などの実施を行い、外部受注事業も引き受けます。また他のイベント事業などの案内があれば状況にもよりますが、参加の方向へと考えております。

【理念】みんなで作る「健康のまち」まちだ 【基本目標1】誰もがすこやかな暮らしができるまちをつくる 【目標3】食で健康を支えるまち(☆重点)

食の「わ」で育むまちだの未来 ～感謝を持って食をたのしみ、食を通じて人や地域とのつながりが持てるまち～

施策

方向性

進捗管理シート等の取組例

施策1
望ましい栄養・食生活の推進

方向性1-1
ライフステージに応じた望ましい食生活の推進

介護予防普及啓発講座(栄養)、料理教室・調理体験、高校や大学における出張講座、栄養に関する健康講座、プレママパクラス、離乳食講習会、町田っ子カリキュラム、小中学校レシピコンテスト、学校給食のPR(試食会)、給食だよりや食札による普及啓発、口腔の健康に関する普及啓発

施策2
食を通じて地域とつながるための支援

方向性2-1
共食の推進と食文化・食事マナーの伝承

料理教室・調理体験、乳幼児保護者の会食、子ども食堂、行事食の提供・普及啓発、学校における食育活動、家庭教育支援学級、まちだすいとん

方向性2-2
地産地消の推進

収穫体験・農業体験、食に関するツアー・観光、グルメマップの活用、町田市名産品の推奨、まち☆ベジBOOKの発行、農業祭、市民農園、まちだすいとん

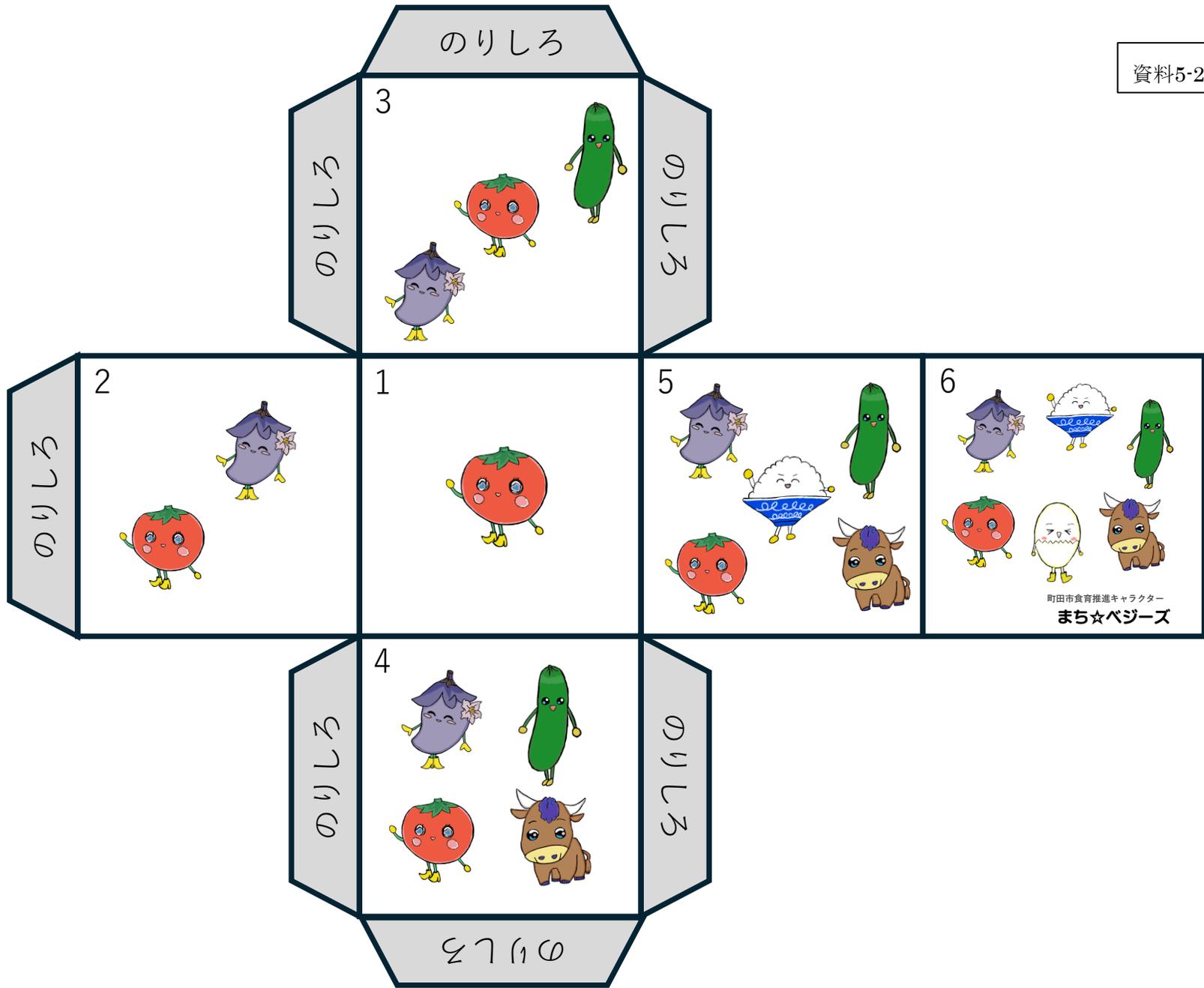
施策3
食に関する環境の整備

方向性3-1
家庭や学校、職場における食環境の整備

食の安全に係る学習会、食品衛生街頭相談、食べものミミより情報の発行、アレルギー教室、給食におけるアレルギー対応、食品ロスの削減、飲食店と連携した取り組み

方向性3-2
地域資源を活用した食に関する情報発信

給食施設における食育(食育ボランティア等)、SNS、商業施設等におけるデジタルサイネージ、食べきりキャンペーン、食品ロスの削減、飲食店と連携した取り組み



2023 年度食育推進計画策定及び推進委員会議事内容【要約】

2023 年度は下記のとおり、計 2 回開催いたしました。

【第 1 回】 2023 年 8 月 4 日(金)13 時 30 分～15 時 30 分

○報 告

- (1)町田市保健所運営協議会の報告について
- (2)第1次・第2次町田市食育推進計画報告書の作成について

○議 事

- (1)「(仮称)まちだ健康づくり推進プラン24-31」の策定について
- (2)2022年度の食育の取組報告および2023年度以降の取組について

○意 見

- ・できるだけ子どもが体験できる機会をつくりたい。横断的な取組としては、田植えをJA町田市と連携してできないかと考えている(保育園協会)。
- ・子どもたちだけでなく、保護者にもきちんと食べる意識を持ってもらいたい。生の野菜だけではなく、加工された野菜も含めて野菜摂取量増加につながると良い(小学校校長)。
- ・家庭に取り込みやすいよう、野菜の包装容器をそのまま加熱できるものにしたり、「カレーセット」のように料理ごとに下処理されたセット販売があると良い(PTA)。

【第 2 回】2024 年 2 月 9 日(金)13 時 30 分～15 時 30 分

○報 告

- (1)町田市保健所運営協議会の報告について
- (2)町田市食育推進計画報告書の作成について
- (3)委員会の名称変更について
- (4)南多摩保健医療圏地域保健医療福祉フォーラムにおける発表について
- (5)「ガチ1分クッキング with ラブベジ®」の発行について

○議 事

- (1)「(仮称)まちだ健康づくり推進プラン24-31」の推進について

○意 見

- ・障がい者差別解消法の改正により飲食店等の事業者について、障がいのある方への配慮が義務化される。保健所が行う事業者向けの講習会で知らせてはどうか。
- ・町田市は地場野菜の収穫量に対し消費者が多い。B級品でもしっかりと商品化して販売に繋げることが必要。また、B級品野菜について、子どもの中から伝えていきたい。
- ・幼稚園や保育園と小学校・中学校・大学は、これまで連携があったが、高校との連携が出来ていない。多世代をつなぐ場が欲しい。